

平成 22 年度 事業報告書

大慈ショートステイ

1. 《法人ビジョン》

- ①経営の強化
- ②サービスの質の向上
- ③教育システムの充実

2. 《基本方針》

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立方針である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本方針として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的・身体的な援助を行う。又、利用された皆様との人間関係を深め、笑顔を忘れず“生活の場”として、利用された方及びご家族に満足していただけるサービスを提供する。

3. 《ケア部門》

<5 カ年計画>

●最終目標 ①『ふあっとほーむな生活を目指す』

※ふあっとほーむとは、和みのある家庭的な雰囲気の中で、人と人とのつながりを大切にすること

②『一人ひとりが輝き、あなたが主役になる場所を目指す』

●22 年度重点目標

①SS 充足率 97%以上（退所後の実績）を維持、又向上を目指し収入の安定を目指す。

A) CMと連携、連絡を図り、信頼関係の構築と新規SSの依頼をし易いように努める。

→退所後平均利用率 95%と目標値まで若干届かなかった。ショートロング者の施設入所や利用予定者の入院や死亡等が重なったのが原因である。毎日、各事業所へ空き情報の紹介等営業連絡を必ず行うが、日程や居室の折り合いが合わず利用に至らなかったケースがあり、今後、希望者が利用出来る環境作り等、更なる営業努力とサービスの向上が必要である。

②SS 新規ゲストのリピーター率の向上を目指します。

（H21 年度は 70%以下であった為、70%以上を目指します。）

A) 新規ゲストについてはSS 送迎時より不安もある為、職員が傍に寄り添い安心して頂ける様に、コミュニケーションを密にとる。

→新規ゲストは 52 名であったが、その内 2 回以上利用された、リピート者は、30 名になり、リピート率は 57%と目標値より大幅に達成出来ず今後の課題となる。新規利用、通常利用共に殆どの送迎について、付き添い送迎を行い、ベッド to ベッドで対応し安心して利用できる環境作りが出来た。コミュニケーションに関しても、畑や昭和の記憶等を交え、ゲストが主体的に話をする事により家庭的な雰囲気のなかでのコミュニケーションを取る事が出来た。

B) 外出の時間を少しでも作り、楽しみや喜びの増加、一人一人のゲストが輝ける様に努める。

→月に一度定期利用者、長期利用者を対象にドライブを実施した。全員対象ではない為、ドライブ出来ない方に関しては散歩等提供し、塗り絵や園芸等を楽しみ、喜びが増せるように努めた。

- C) 一日一度は必ずゲストとのコミュニケーションを図る。
→毎日必ず話を聴く事が出来た。詳しくは、②目標に記載。

4. <<看護部>>

①バイタルチェック

- A) 入所時、入浴時のバイタルチェックを行う。
→その都度のバイタルで、異常者も特になく状態も把握出来た。

②持参薬の管理

- A) 利用中の薬を個別にセットする。
B) 毎日の薬をセットし、間違いのないようにダブルチェックを行う。

☆診療所受診について、主治医への受診が基本であるが、要望があればその都度対応する。
→持参薬に関しては様々な形で持参される方が多い為、家族との連携も必要となるが、特に事故につながるような事はなかった。

5. <<栄養科>>

<目標>

①ゲストから多くの「おいしい」の言葉を聞くことができる。

- A) ゼリー食を昼食でも充実させ、新しい食事形態を確立する。
B) 食事に関わる職員全員が食事内容を理解し、給食会議を通して再確認する。
C) おやつ作りや調理実践行事のメニューは季節感を考慮し、ニーズにあった楽しく感じる作業内容を計画し実施する。
D) 『職員・利用者アンケート』の満足度を100%にする。

②誤嚥予防の知識を深め、事故防止に努める。

- A) 食事に関わる職員全員が食事内容を理解し、給食会議を通して再確認する。

③新体制にむけてタイムテーブルを新しく作る。

- A) 月1回委託業者と会議を行い、一年で作成する
B) ケアハウス栄養科と連携して業務の効率化を図る。計画案作成にあたり試験的に実施する際は関連業者・部署の理解、協力を得る。

→栄養士が中心となり毎月少人数での実施であったが、年度後半からはショート食堂にて職員配置を充実する事で、以前より参加人数が増加している。次年度より月1回、間食時に定期的に行うことが決定した。アンケート結果は、去年度より満足度は10%低下しており目標達成できなかったが、3Fと比べてショートステイを含む1Fの方が良いと答えた職員が多かった。前年度の結果から食器の扱いについては厨房では弥勒園と同様の対策をとったが、老朽化しているものもあり、落ちない汚れが目立ってきている。その為、やかんの補充については、メラミン素材の急須に変更や、陶器食器の使用を継続したことでショートの方が見た目がよいことも理由の一つ考える。

6. <<理学療法科>>

<実践目標>

①個別機能訓練者への適切な（在宅生活に基づく）プログラムの作成・随時

→個々の在宅での生活スタイル・環境等を聞き取り、そのスタイルに順応した対応を指示した。

- 7. 《年間行事食実施 全部署》
 - 8. 《行事等の実施内容・反省点》
 - 9. 《会議の実施内容・反省点》
 - 10. 《職員会議・OFF-JT》
- } 弥勒園同様

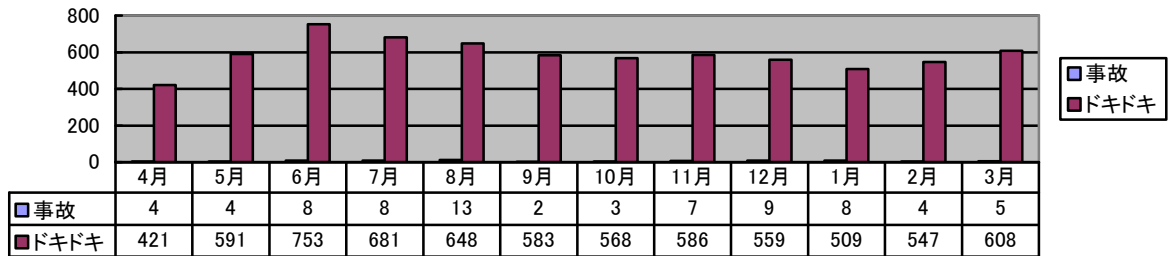
11. 《リスクマネジメント報告》

①報告件数・・・7129 件（事故 75 件、ドキドキ 7,054 件）

前年度・3,735 件（事故 85 件、ドキドキ 3650 件）

→6月～8月に掛けて報告数が上昇。これは特定のゲストの定期利用によるもの。原因が明確であったが、対策出来ず、同様の事故が頻発した。ドキドキに関しては前年度と比較すると倍の報告件数。

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。



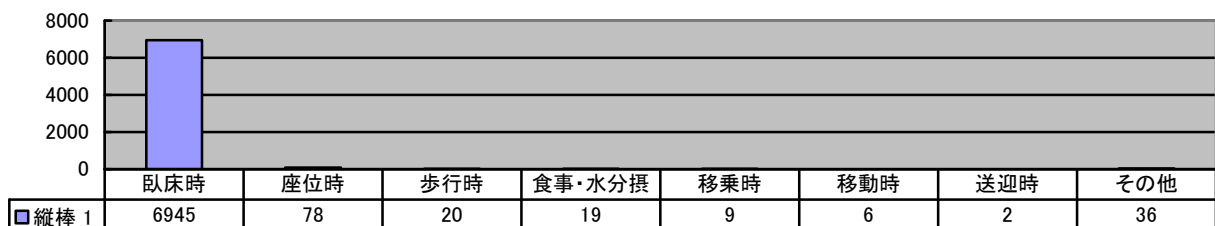
②発生場所別件数

→割合では居室が最も多く、次いで食堂、廊下と前年度より変化見られていない。前年度と比較すると居室の報告数が倍に増加。居室で過ごされている時間にリスクを伴うゲストが増加している事が分かる。



③発生状況別件数

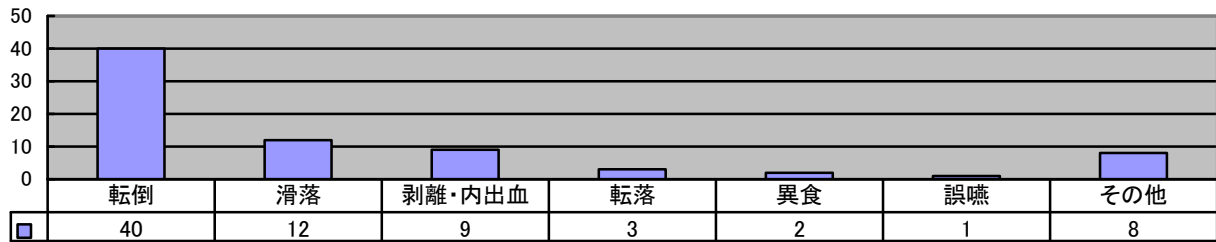
→臥床時の報告数が前年度の倍以上に増加。動き出しにリスクを伴うゲストが増加している事が分かる。



④発生内容別件数

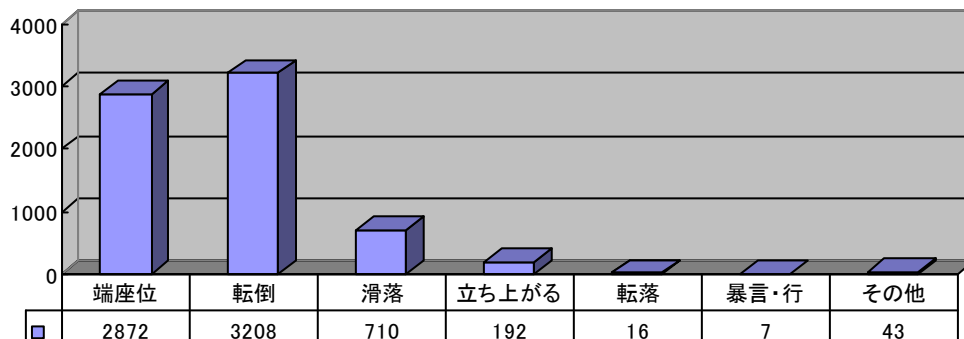
○事故内容

→転倒事故が最も多く、次いで滑落、剥離・内出血となっている。転倒に関しては前年度より12件増加。剥離・内出血は前年度より半減しており、職員の介護技術の上昇は見られる。



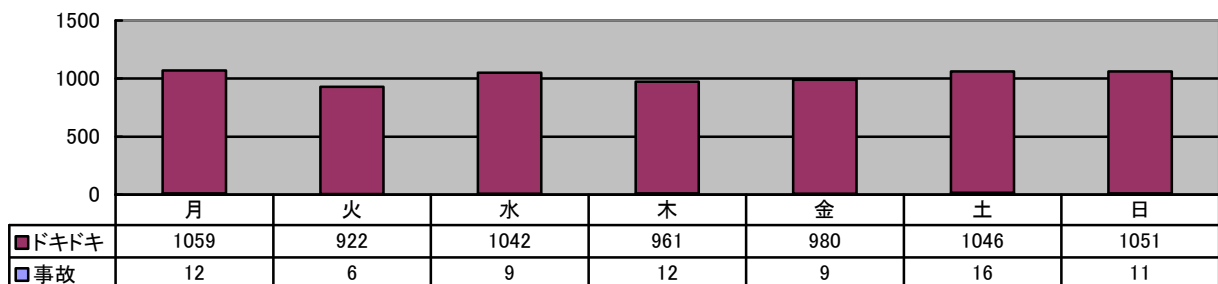
○ドキドキ内容

→前年度と比較すると転倒の恐れが端座位の報告件数の割合を上回っている。歩行時にリスクを伴うがゲストが増加している事が分かる



⑤曜日別件数

→ドキドキの報告件数に大差はないが事故報告は土曜日の件数が突出している。ゲストの入れ替わりが重なる曜日、又、利用人数の多い曜日に集中していると考えられる。

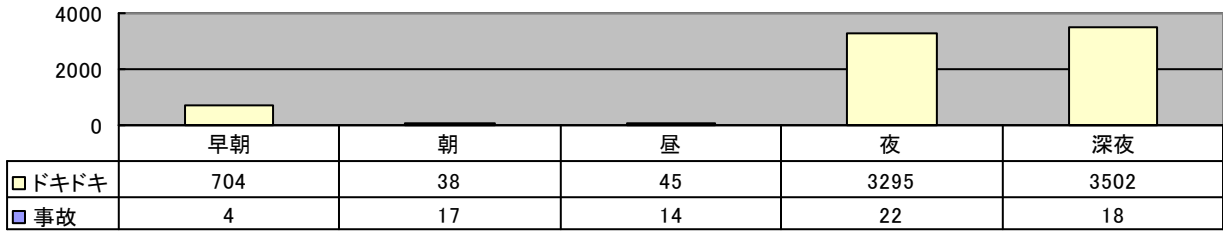


⑥時間帯別件数

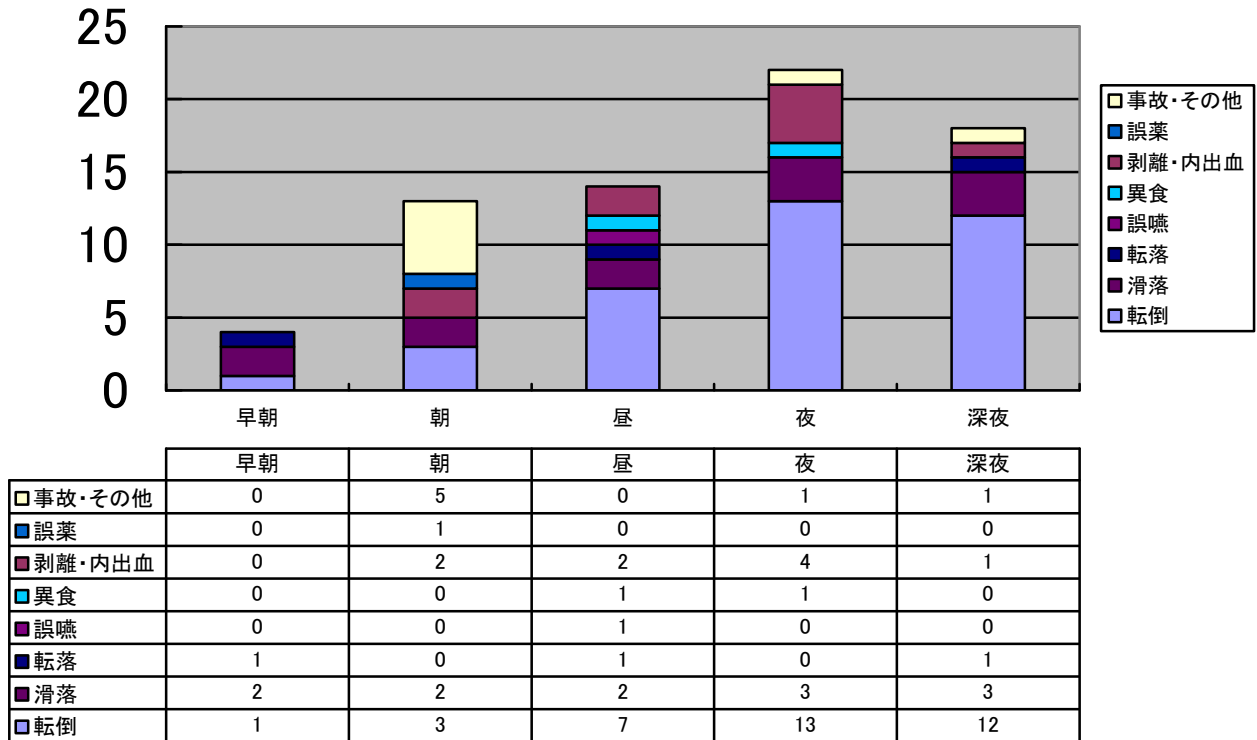
→事故・ドキドキ共に夜・深夜の報告件数が多い。リスクを把握していても対応出来ていない場面が多いと考えられる。夜・深夜の転倒事故の報告が多い。これは昼夜逆転傾向にあるゲストが多くおられ、歩き出しに職員が間に合わずに転倒される場面が多く見られた事が原因と考えられる。

早朝 4:00～6:59	朝 7:00～11:59	昼 12:00～16:59
夜 17:00～22:59	深夜: 23:00～3:59	

○ドキドキの時間帯



○事故の時間帯



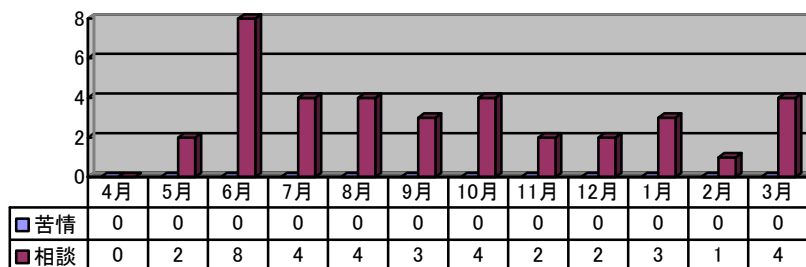
⑦まとめ

→新規ゲストの増加やハイリスクとなるゲストの増加により、ドキドキの報告件数が急増した。特に座位から歩行の動作にリスクを伴うゲストが多く、職員が対応に間に合わず、発見時には転倒されているケースが多く見られた。今後もハイリスクとなるゲストは増加すると思われる為、関係機関とのかかわりを密に情報を得ると共に、ゲストのADLに対応した業務改善・職員スキルの向上に努めていきたい。

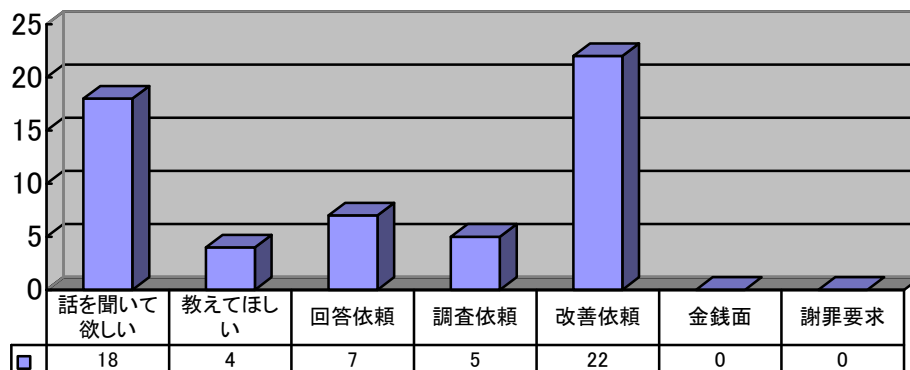
12. ≪苦情・相談結果報告≫

苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数・・・37件（苦情なし）前年度4件（苦情報告なし）

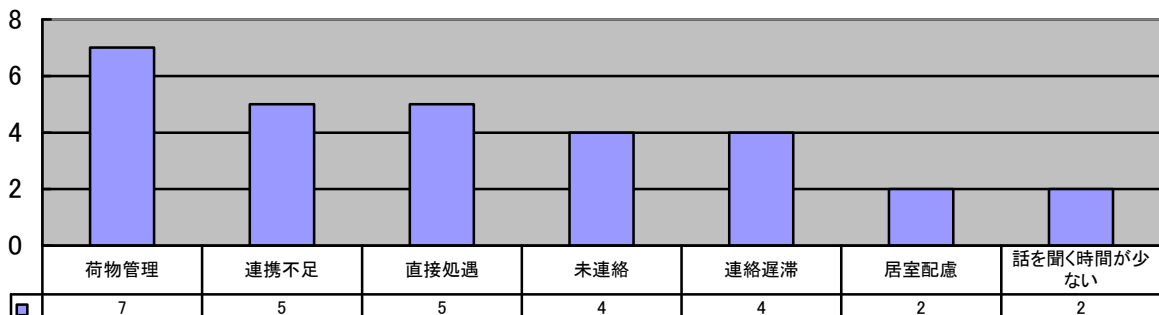


要望分類



※複数回答しているため件数が多い。

主な内容



○まとめ

→荷物管理（返却忘れ・紛失等）に関する内容が最も多く聞かれた。今年度より衣類のチェックを詳細に出来るようにチェックの機会を増加し、対応するも解消には至っていない。今後も対策を考慮していく必要がある。直接処遇に関しては特定のゲストよりマナーに関しての内容が相次いで聞かれた。個人名での指摘であった為、直接指導行っている。次いで、連絡系統への相談が多く聞かれている。特に未連絡・連絡遅滞が多くあり、連絡系統の強化は今後必須となると考える。

13. 《総括》

今年度の目標に関して、『目標』の部分でも述べたが、施設入所等により充足率が若干下がり、設定した目標には及ばなかった。その反面、『リスクマネジメント』の報告にもある通り、ハイリスク者が増え、報告件数が約倍増している。ゲストが立ち上がり等で移動しようとした際にこのリスクが発生しており、センサー設置等で対応するが、「わかっているけど対応できない」という事例が多々あった。職員配置や業務改善を実行し対応を重ねている。

大慈弥勒園が実行している「オムツゼロ」の影響もあり、ショートステイゲストも毎日歩行される方もおられよい影響を受けている。レクリエーションを望まれるゲストやご家族が増加してきており、より個別性のあるケアを考えていくと、長期利用の方から「オムツゼロ」を実行したいと考えている。

年度後半から、新規施設の開設により当園も影響を受けたが、最終目標に対する理解を深めると共に、以前から実践している「困った時の大慈園」をさらに広めていく事で、外的要因に対抗できると考えている。